

環境に配慮した発電に寄与する道路整備～松江だんだん道路～

- 『松江バイオマス発電所』は14,000世帯分の電力を発電しているが、「破碎チップ」や「切削チップ」等の発電に必要な燃料を松江だんだん道路で毎日搬入！

＜松江バイオマス発電所への燃料の搬入＞



＜松江バイオマス発電所の概要＞

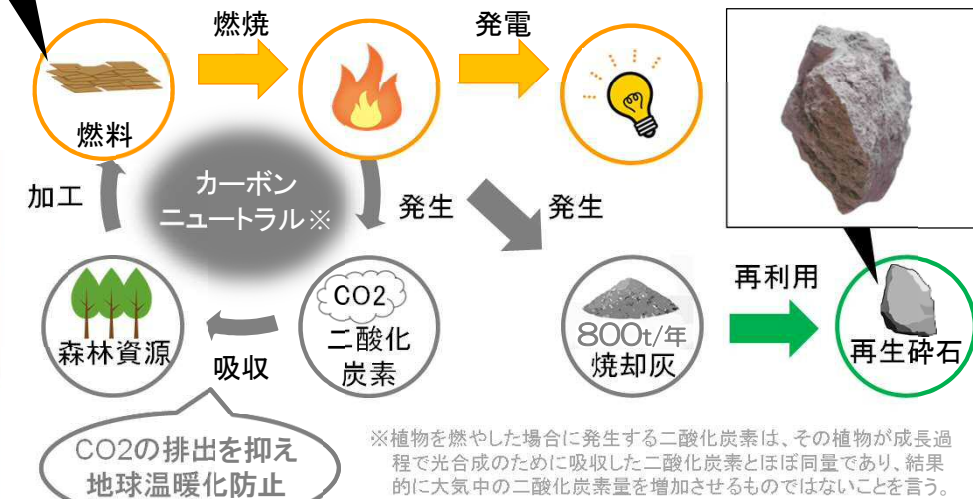
これまで廃棄されていた木の枝等を活用した「破碎チップ」や「切削チップ」、「ヤシ殻(PKS)」を燃やして発電するとともに、発電過程で発生する焼却灰から再生碎石を製造し、建設資材に再利用する等、環境に配慮した発電を行っている。



破碎チップ
これまで廃棄されていた木の枝や皮を叩いて砕いたもの。

切削チップ
丸太を切って削ったもの。

PKS (Palm Kernel Shell)
パーム油を製造する過程で発生するヤシ殻。



※植物を燃やした場合に発生する二酸化炭素は、その植物が成長過程で光合成のために吸収した二酸化炭素とほぼ同量であり、結果的に大気中の二酸化炭素量を増加させるものではないことを言う。

※H29ヒアリング調査結果より

【松江バイオマス発電所の声】



- ・松江だんだん道路があることも考慮して立地を決めました。
- ・燃料である木材チップは、松江だんだん道路を利用して毎日大型トラックで搬入しています。
- ・また、稼働に併せて、18名を新たに雇いました。

※H29ヒアリング調査結果より